

れ、かなりの相異があった。その本がいろいろな観点で良い本であっても、どの子にも好かれるとは限らない。結局、本の良し悪しを区別する最大の保証は、子どもの絵本には、大人ができるだけ数多く目を通すことであろうと思われる。

#### D-8 幼児と絵本（第2報） —よい絵本について—

同志社女大家政 片山登美子

1. 子どもと本の触れ合い、そして幼児にとって初めての本である絵本との触れ合いがどんなに大切か理解されているにもかかわらず、親や教師の責任である絵本と子ども達の橋渡しは未だ充分できていないといえない。保育の基礎研究の一つとして昨年度は、家庭および幼稚園で絵本がどのように与えられているか、親と教師の絵本に対する考え方など調査結果を一部の現状であるが報告した。今回は、大人が絵本の良し悪しを判定する基準や条件について検討、考察を行なう事にした。

2. 一般的な良い絵本の条件を子どもの成長、発達過程で絵本が果たす役割を考慮にいれ考察を行なった。日本の昔話絵本の「一寸法師」18種類（童話3種類を含む）の絵本を対象に、特に「絵」と「物語」について比較を行なった。大阪・京都143幼稚園（昭和43年6月24日～7月13日）の教師を対象に調査を行なった。

3. 幼稚園の教師は絵本で大切なのは、絵・物語性・造本・価格の順と考える傾向が強かった。一寸法師という一つの作品でありながら、18種類のなかみはそれぞれ